



静岡市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

【制作・発行】

静岡市

【お問合せ】

静岡市総合政策局企画課

静岡市葵区追手町5番1号

TEL054-221-1022

【印刷】

ナガハシ印刷株式会社

令和6年度
静岡市SDGs連携アワード

連携事例集



市長挨拶

静岡市長

難波 喬 司



令和6年度も、SDGsに積極的に取り組む事業所・団体の皆様より、静岡市SDGs連携アワードに数多くの取組事例を応募いただき、厚く御礼申し上げます。

SDGsの目標は、世界中の環境・社会・経済に関する様々な課題を解決するためのものであり、単にうわべだけで取り組むのではなく、実効性が伴うことが重要であると考えています。とりわけ、静岡市が抱える社会課題は複雑化・多様化しており、行政のみでの解決は難しい状況です。そうした中で、このSDGs連携アワードには、事業所・団体がそれぞれの強みを活かして連携し、実際に行動した取組が寄せられており、「共創」の取組が広がっていることを実感し、大変心強く感じています。

汎用性の高さに着目し、表彰するこの制度は、優れた取組を内に留めるのではなく、広く共有し、発展させることを目的としています。この事例集が新たなつながりを創出するヒントとして活用されることを期待しています。

1 はじめに（静岡市長 難波喬司）	1
2 令和6年度 静岡市 SDGs 連携アワード 概要	4
3 大賞・部門賞・SDGsローカルハブ都市特別賞・奨励賞 事例紹介	5
【大 賞】 LGBTQ カップルのためのフレンドリー企業一覧マップを製作	6
【部門賞】 ・ローカルビジネス部門 クラフトビール製造の副産物をアップサイクルした販促グッズで売上向上！	8
・ローカルアクション部門 サクラノキテラスでつながる、誰もが取り残されない健康を！	10
・パートナーシップ部門 環境配慮型教育支援プラモデルによるマテリアルリサイクル促進プロジェクト	12
・ユースアクション部門 「私たちの学びを届けて未来へ繋げる」～静岡市の特産品を活用して～	14
SDGsローカルハブ都市 【特別賞】 SDGs 環境教育プログラム「バガス容器が見出す無限の可能性」	16
【奨励賞】 高大産連携！廃棄野菜を餌とした用宗海岸ムラサキウニ養殖プロジェクト	18
ミツバチの「めぐみ」がつなぐ静岡市	20

4 連携した取組事例紹介

1 貧困をなくそう ・食料品寄付運動「せいしんフードドライブ」	22
2 飢餓をゼロに	
3 すべての人に健康と福祉を ・サクラノキテラスでつながる、誰もが取り残されない健康を！	10
4 質の高い教育をみんなに ・環境配慮型教育支援プラモデルによるマテリアルリサイクル促進プロジェクト	12
5 ジェンダー平等を実現しよう	
6 安全な水とトイレを世界中に	

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに ・廃油回収でCO ₂ 削減！	23
8 働きがいも経済成長も ・クラフトビール製造の副産物をアップサイクルした販促グッズで売上向上！	8
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
10 人や国の不平等をなくそう ・LGBTQカップルのためのフレンドリー企業一覧マップを製作 ・みんなのファッションショー	6 24
11 住み続けられるまちづくりを ・SDGs環境教育プログラム「バガス容器が見出す無限の可能性」	16
12 つくる責任 つかう責任 ・「私たちの学びを届けて未来へ繋げる」～静岡市の特産品を活用して～ ・高大産連携！廃棄野菜を餌とした用宗海岸ムラサキウニ養殖プロジェクト ・S-PULSEフードドライブ ～CHALLENGE with ONE FAMILY～ ・生産から販売まで静岡市内で完結！特産品に隠された「もったいない」を活用！	14 18 25 26
13 気候変動に具体的な対策を ・SUSTAINABLE GARDEN PROJECT ～地球にやさしいガーデニングを広めよう～	27
14 海の豊かさを守ろう	
15 陸の豊かさを守ろう ・ミツバチの「めぐみ」がつなぐ静岡市 ・荒廃農地で静岡の新たな大生姜ブランドを立ち上げよう！	20 28
16 平和と公正をすべての人に	
17 パートナーシップで目標を達成しよう	

5 連携事業所・団体 一覧	29
---------------	----

1 静岡市 SDGs 連携アワードとは

地域課題の解決に向け、持続可能な開発目標「SDGs」の目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）を通じた事業所・団体間の連携した取組を増やすことを目的としており、SDGs達成に向けて行われる取組のうち、事業所・団体間の連携を誘引しやすく、汎用性の高い取組を行っている2以上の異なる事業所・団体によるグループを表彰します。

2 評価項目及び基準

提出された「応募シート」の記載内容から、【汎用性】及び【For SDGs】の各項目について評価を行い、選考委員会の意見を踏まえ、総合的に表彰対象を選考します。

【汎用性】

項 目	着目点
連携可能性	さまざまな分野による連携が可能か (さまざまな事業所・団体が参加しやすいか) (限られた事業所・団体でのみ連携可能な取組でないか)
普遍性	何をきっかけに取組が進められたか (特殊な環境・要因が介在していないか)

【For SDGs】

項 目	着目点
効 果	17の目標の達成に貢献できるか (環境・経済・社会のいずれもの目標達成に貢献しているか) (SDGsの普及、啓発だけにとどまっていないか)
新規性	目新しさ・ユニークさがあるか (他で行っていない取組又は知られていない取組か)

3 応募におけるメリット

受賞または事例集に
掲載されることによる広告効果

・市HP及び冊子にて公表されることによる情報発信

他事業所・団体の取組を把握し、
連携の模索・強化

・他の取組を知ることによる連携機会の増加

4 令和6年度 選考委員会 委員

選考委員会は、環境、経済、社会、教育分野等に関係する有識者、学識経験者等から幅広く委員を構成しています。

	氏 名	所 属		氏 名	所 属
委員長	 佐久間 信哉	慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員	委 員	 阪口 瀬理奈	一般財団法人静岡経済研究所 特任研究員
委 員	 楠本 浩史	関東地方環境事務所 地域循環共生圏構想推進室 推進官	委 員	 小林 祐介	一般社団法人草薙カルテッド ディレクター
			委 員	 山本 由加	静岡市社会教育委員会議 委員



大 賞



部 門 賞

- ・ローカルビジネス 部門
- ・ローカルアクション部門
- ・パートナーシップ 部門
- ・ユースアクション 部門



SDGsローカルハブ都市

特 別 賞



奨 励 賞



大賞

選考委員からのコメント



佐久間 信哉氏

大学生の純粋な思いに大学やNPO法人が連携し、地元企業がそれに応える形のパートナーシップで実現したSDGs達成に向けた地域の素晴らしい取組であり、今後様々な展開も考えられるなど、応募事例の中で最も優れた取組と言えます。



小林 祐介氏

届けたい人の気持ちに寄り添った取組として高く評価しました。課題の発見と取組の設計には他分野でも参考となる点が多く、静岡市を代表するSDGsの取組として、さらなる発展と地域への貢献が期待できます。

SDGsインパクト



【ターゲット 10.2】

年齢、性別、障害、人権、民族、出自、宗教、経済的地位やその他の状況にかかわらず、すべての人々に社会的・経済的・政治的に参画できる力を与え、その参画を推進する

同性カップルに理解のある企業や店舗を見つけるための情報源が乏しいという課題意識から、パンフレット制作につながったこの取組は、性別にとらわれない、全ての人々の社会参画の推進に貢献している。



【ターゲット 11.3】

だれも排除しない持続可能な都市化を進め、参加型で差別のない持続可能な人間居住を計画・管理する

制作されたマップやロゴが広まることで、静岡市街地を中心にフレンドリー企業、店舗、人々が集まり、誰でも利用できる・参加可能な、差別のない社会の実現に寄与する。



【ターゲット 17.17】

効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

学生団体を中心として、教育機関、企業、民間団体等がそれぞれの強みを活かして協力・連携し、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて取り組んでいる。SDGs達成に向けても、模範となる取組。

LGBTQカップルのためのフレンドリー企業一覧マップを製作

LGBTサークル「grandiose」× 静岡大学
× NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議 × NPO法人しずおかLGBTQ+

1.取組概要

LGBTサークルの学生たちの思いを起点に大学やNPO法人が連携し、静岡市中心市街地通称“おまち”にある11店舗の協力を得て『LGBTQフレンドリー企業一覧 静岡おまちMAP ウェディング編』を製作しました。これにより「問い合わせをすることさえ躊躇した」という同性カップルが悩むことなく店舗に足を運ぶことができ、当事者や店舗にとっての機会を創出するとともに地域のブランド化や活性化にもつながることが期待できます。

2.該当するSDGs目標



LGBTQに代表される性的マイノリティが直面する困難を解消し、平等な機会の創出に貢献できると考えます。企業や店舗には見えなくても、当事者から見える「情報の壁」を理解する機会となります。

その他関連するSDGs目標



3.目標に対する達成状況、実績

マップは1,000部製作し、静岡市のパートナーシップ制度で宣誓した同性カップルに渡されるほか、市内の公共施設や東京都内にある静岡市移住支援センターなどにも置いています。そのほかにもロゴステッカーを50枚製作しました。マップは静岡大学のホームページからもダウンロードでき、地域を問わずウェディング準備に悩むLGBTQカップルの生きづらさ解消に貢献できます。

4.取組イメージ

製作したMAPと協力店舗向けロゴステッカー



5.取組が開始されたきっかけと展開

同性同士の婚姻が法的に認められていない日本では、LGBTQカップルに対して「結婚に相当する関係」とする証明書を自治体が独自に発行する制度が、2015年に東京都渋谷区や世田谷区で始まり、現在は全国の自治体のうち8割以上が導入しています。しかし、例えば「指輪をつくりたい」「パーティーを開催したい」という同性カップルが理解のある企業や店舗を見つける情報源は限られています。問い合わせをすることさえ躊躇したという当事者からの声も聞いたことから、地域版のマップ製作を目指しました。学生と大学教員が発起人となり1社ずつ訪問しましたが、企業や店舗とのネットワークを持つ社会人2人が候補先の代表者に事前に打診してくださったおかげで、11店舗の賛同をスムーズに得ることができました。また、連携先のNPO法人の応援により印刷費用の捻出や設置施設の拡大が実現できました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

特定地域を対象としたLGBTQフレンドリー店舗マップとしては東京都渋谷区が企業と連携して製作した例があるものの、学生が主体となって製作した例はほとんどありません。学生が主体となることで連携や協力に際しての利害関係が生じにくいと実感しています。そこで、他地域や他大学でも同様の動きが広がることを願い、大学からこの取組の情報を発信していますが、さらに今後は、アドバイザー教員により研究報告としてまとめ、取組の意義や価値を明らかにしていきます。また、今回のマップには掲載していない企業や店舗が情報発信したいという場合は、サークルのInstagramで紹介するとともに、今後、講演会やセミナーなどの機会を通じて地域内でのLGBTQに関する理解拡大を目指していきます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

マップは見やすさや情報へのアクセスのしやすさのほか、店舗への親しみやすさを重視して製作しましたが、店舗ごとの情報枠はレイアウトをパターン化したため、取材時間を多くとらず、店舗側の負担も最小限にしました。また、複数の当事者カップルに「問い合わせしにくいポイント」を聞き取りし、それが解消できるよう、お店の雰囲気や担当者の人柄が伝わるコメントを付けました。



さらに、マップではイラストを使ったカテゴリ分けを行い、探したい情報を見つけやすくするとともに、どんな商品・サービスの店舗なのかすぐにイメージできるようにしました。



また、掲載協力先の店舗がフレンドリー企業であることを来店された方（当事者・非当事者）にも見えるよう、ロゴステッカーを製作し、各店舗にお渡ししました。ロゴマークの上には、他の地域でもこのような取組みが広がることを願い、「SHIZUOKA city ver.」としています。





部門賞 ローカルビジネス部門

選考委員からのコメント



佐久間 信哉 氏

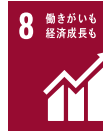
地元産ハチミツを使った地域限定クラフトビールの製造過程で発生する麦の空き袋や絞り粕を活用し販促資材に転換することにより地産地消を目指した取組であり、その過程で障がい者の就労支援にも貢献するなど、今後のさらなる発展が期待されます。



阪口 瀬理奈 氏

アップサイクルの場合、ストーリーだけでなく商品そのものの魅力も問われると思うが、麦袋で作られたトートバックはデザイン性が高く、さらに製造工程でも作業性も考慮されており、アップサイクルの代表事例といわれるものになると思います。

SDGsインパクト



【ターゲット 8.9】

各地の産品販促等につながる、持続可能な観光業を推進する政策を立案・実施する

地産地消クラフトビールの商品 PR を目的に、デザインを工夫しながらサステナブルな販促グッズを制作した。「デザイン」と「SDGs」を掛け合わせ、ビジネスにつなげる取組として評価できる。



【ターゲット 10.2】

年齢、性別、障害、人権、民族、出自、宗教、経済的地位やその他の状況にかかわらず、すべての人々に社会的・経済的・政治的に参画できる力を与え、その参画を推進する

障害者就労支援施設や地域の技術を基盤とした取組。すべての人々が強みを活かし、社会とのつながりをもつことを推進している。



【ターゲット 12.5】

廃棄物の発生を再生利用等により大幅に減らす

本来であれば廃棄されていたはずの副産物を、主産物の販促グッズとして生まれ変わらせたことで、廃棄物の抑制に加えて、商品に付加価値を与える取組として、環境・経済・社会の3側面に貢献している。

クラフトビール製造の副産物をアップサイクルした販促グッズで売上向上！

静岡醸造（株） × 駿府の工房 匠宿 × 就労継続支援B型事業所 rico ×
（株）第一クリエイティブ × 縫製作家 15（イコ） × 桜井養蜂

1.取組概要

「地域資源の活用」をテーマに、市内の企業や障害者支援施設との協働により、クラフトビール製造の副産物を原料として、トートバッグや手漉き紙によるタグ等のグッズを開発しました。出来上がったグッズは、静岡産のハチミツを使用した地域限定クラフトビールの販促に利用し、静岡の新たな特産品として売上向上に役立てられています。

2.該当するSDGs目標



地域企業の協働によって、地元素材を使った製品の売上拡大を目指します。これにより、やりがいある仕事の創出と、商業的にも持続可能な地産地消を実現します。

その他関連するSDGs目標



3.目標に対する達成状況、実績

地域限定クラフトビールは取組以降取扱店での売上好調を維持しながら販売を継続しています。

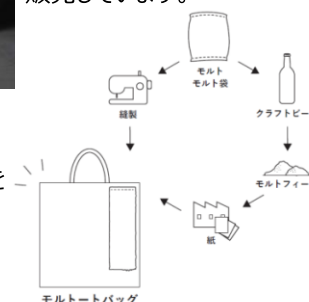
また本取組が新聞で紹介されるなど関係企業団体のイメージ向上にも貢献しました。

4.取組イメージ



静岡産のハチミツを使用地域限定クラフトビールと副産物から作ったグッズのトートバッグ（手漉き紙のタグ付き）をセットにして販売しています。

本取組の概念図です。地域の原料、技術、人の力を余す所なく活用して魅力ある製品を製造し、持続可能な地産地消を目指します。



5.取組が開始されたきっかけと展開

【地産のハチミツを使用した地域限定クラフトビール「ハニーピルス」】「静岡醸造」と「桜井養蜂」が近隣にあったことから、魅力ある地産地消の商品を開発しようと意気投合し、地域限定クラフトビールの開発に繋がりました。ハチミツの香りとクラフトビールの味わいのバランスを何度も調整し、静岡醸造の入居する「駿府の工房 匠宿」で地域限定商品として発売を始めました。

【クラフトビール原料の麦の空き袋を使ったトートバッグの開発・製造】この製品のPRに悩み、面白みのある販促グッズとして、副産物を使用したトートバッグを制作することにしました。以前から作業を依頼していた「就労継続支援B型事業所 rico」での製造を前提とし、「縫製作家15」と見た目と作業性を両立できるデザインを工夫しました。

【クラフトビール製造時の麦の絞り粕を使った手漉き紙の開発・製造】本取組の内容を伝えるため、製品に大判の紙タグをつけています。ここにも取組の一部として、副産物を原料とした味のある手漉き紙を使用しています。小型で誰でも手漉き紙が作れる装置「紙屋英三郎」を製造販売する「第一クリエイティブ」で副産物の特性に合わせた紙の開発・製造を行いました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

【地産原料を使用したクラフトビールの展開】

ハチミツに限らず地産原料を使用した新製品の開発を継続し、「駿府の工房 匠宿」と周辺観光・宿泊施設の拡大とも合わせ、静岡市を訪れる魅力の一つとなることを目指し販売・PRを継続します。

【今回開発したグッズ、手漉き紙の展開】

「駿府の工房 匠宿」にて、クラフトビールとセットでの取扱を継続します。さらに本取組で得た麦の空き袋の加工や、麦の絞り粕を原料とした手漉き紙製造のノウハウは新たな販促グッズや店舗什器の製造に活用できる可能性を秘めており、取組の拡大に繋がりたいと考えています。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

本取組のスキームは、特に地域の中小規模の事業者において、比較的費用をかけずに魅力ある商品を開発製造し、さらに地域の活性化に資する取組を行うヒントとなると考えています。

【地域の技術を活用】
・手漉き紙が少量から簡単に作れる紙漉き装置
・布製品のデザインと縫製

小型紙漉き装置
「紙屋英三郎」

こうした小回りの効く地域企業・個人の技術を活用し少量でも製品を形にすることができます。

縫製作家15
の作品

【地域の人の力を活用】

就労継続支援事業所との協働により、企業は地域の人的資源が確保できます。

また作業に携わった製品が地域で販売されることは利用者のやりがいにも繋がります。

【地域の素材を活用】

ハチミツに限らず、静岡市には農作物、畜産、海産物等の高品質な素材が多くあります。生産者以外の視点からの提案で想定されていなかった魅力的な製品が生まれることもあります。



桜井養蜂のハチミツ



部門賞 ローカルアクション部門

選考委員からのコメント



山本 由加氏

SDGsの達成は「当事者コミュニティがしなやかに生み出される社会」に行き着くように思います。サクラノキテラスを入り口に病気以前の人でも「健康」について情報を得られる、ゆるやかに楽しく明るいコミュニティが形成されていることに可能性を感じます。



阪口 瀬理奈氏

医療と市民の距離を、自然な形で近づける素晴らしい取組です。マルシェの形にすることで出展者、ボランティアの運営支援、来場者..様々な人が無理なく関わる場になっており、それが本取組に広がりを持たせています。

SDGsインパクト



【ターゲット 3.4】

非感染性疾患による若年層の死亡率を減らし、心の健康と福祉を推進する

社会から孤立し、心身の健康から遠のいている人々を、社会とつなぐ役割を担う取組。参加者の中には、再び学校に通えるようになった方もおり、この取組の社会性の高さも感じられる。



【ターゲット 10.2】

年齢、性別、障害、人権、民族、出自、宗教、経済的地位やその他の状況にかかわらず、すべての人々に社会的・経済的・政治的に参画できる力を与え、その参画を推進する

未就学児童から高齢者まで、年代等を問わず、すべての人々が参加できる。医療従事者との接点をもつ場でもあり、ここを窓口として、社会とつながりをもつ機会を提供している。



【ターゲット 11.7】

女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する

マルシェや演奏会、趣味の発表など、誰でも参加できる空間を提供している。医療機関が主軸となって公共スペースを生み出していることで、将来的な可能性も広がりやすい。

サクラノキテラスでつながる、誰もが取り残されない健康を！

大石内科循環器科医院 × 株式会社やまうち薬局 × スポーツクラブセイシン

1.取組概要

大石内科循環器科医院の中庭を「サクラノキテラス」と名付け、マルシェやワークショップなど様々な出店者やお客様が集まるイベントを毎月1回定期的に開催しています。(株)やまうち薬局・スポーツクラブセイシンではサクラノキテラス開催時に、講師として健康・食事・福祉などをテーマに参加型講座を提供しています。全ての人にとって健康や医療・福祉が身近な存在であり、社会とつながるコミュニティの場所として継続的に開催しています。

2.該当するSDGs目標

3 すべての人に健康と福祉を
医療が身近な存在として自ら地域に目を向け、健康に欠かせない人と人・地域がつながれる場所を提供しています。社会的孤立を防ぐことで、すべての人が健康で、幸せに暮らせる地域づくりを目指しています。

その他関連するSDGs目標



3.目標に対する達成状況、実績

来場者数・店舗数・売上等の増加だけを目指しているわけではなく、継続的に未就学児童から後期高齢者まで多世代・様々な方が立ち寄り交わる場所を目指しています。2020年に3人でスタートし、2024年7月には30組以上が出店者・演奏として参加、多くの方が参加・来場するコミュニティへ成長。後期高齢者の趣味の発表や、学校へ通えない方が再び通えるようになる等の効果も表れています。

4.取組イメージ

2020年小さな屋台をつくり、活動を軒下からスタートしました。(右上)やがて活動に共感してくれる人が現れ、整体やお茶を振舞う人など2021年に現在の中庭で開催するスタイルにまで仲間が増えました。マルシェや演奏など子どもから大人まで楽しめる場所、人とつながれる場所に。(右中・右下)3者が企画する健康ワークショップでは季節に合わせた健康に関するお話や体験を提供し、医療従事者や関係者と気軽に話せる時間を設けています。(左下)



5.取組が開始されたきっかけと展開

医者として医療活動だけでは、人の病気の根源を解決できないと感じていました。病気の原因を考えると社会から孤立し、自分の存在や生きがいを見失った人ほど心身の健康から遠のいています。その解決のため私は妻・友人の3人で軒先から健康屋台を始め、様々な人と話し続けました。人と人が、そして社会とつながっていると少しでも実感してもらい、そして医療が誰にでも身近でありたいという思いからでした。活動を続ける中で共感し一緒に活動してくれる人が現れ、仲間が増えました。やまうち薬局・スポーツクラブセイシンが加わることで、健康に関する領域・専門分野を活かしたワークショップや体験などの活動が大きく広がりました。3者で毎月会議を行い、心と体の健康つながるコンテンツを企画し毎月開催しています。軒先から始めた小さな活動は、サクラノキテラスという大きなコミュニティとして多くの方が関わる取り組みになりました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

この活動は拠点を中心とした輪が広がるだけではありません。サクラノキテラスで出会った人達がそれをきっかけに、他の場所でも互いの取組みへ参加したり協力したりと人のつながりが地域へ広がり波及しています。またイベントなどにも出店し、他の場所でも健康屋台を開き接点を増やしています。医師・薬剤師・管理栄養士の3者が聞き手として、訪れる様々な人の話を聞きました。健康について身近に感じて貰いながら、人とつながるきっかけ作りの窓口を広げる活動を今後も展開していきます。2024あおばフェスにて3者が共同出店 (右)



7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

自分の特技や得意なことが、誰かにとっては役立ちチカラになる事があります。どんな人でも、必ず地域コミュニティに役立つ何かを持っています。最初は1人で始めたとしても、活動を続けていくと興味を持ってくれる人が現れます。私達も当初はほんの数人しかお客さんが来ない時期もありました。諦めずに定期的に継続して開催することです。次に主催者とお客様という関係だけでなく、興味を持ってくれた方や自分も何かしたいという方を仲間へ巻き込んでいきます。参加者の中には自主的にチラシを配ってくれる方や、会場準備を手伝ってくれる方がなどが現れました。そうして本来なら接点が無い人同士がつながったり、新たな活動が始まりました。また、それぞれの資格や強みを活かしたコンテンツを作ります。私達では管理栄養士によるタンパク質がとれるお弁当作り、健康運動指導士による疲れにくい歩き方教室など企画して開催しました。職業や資格以外でも、新たに出会ったり加わったりする人の「私はこんな事ができる」を活かしたコンテンツ作りがマンネリ化を防ぎ継続的な開催の手助けとなるはずです。そして何より欠かせないのはこうした活動がSDGs目標達成のため、社会貢献のためだからという目的意識だけでなく、主催する自分たちが一番楽しむという姿勢です。活動を継続していくためには、楽しむことが欠かせません。そして楽しそうな人や活動の周りには、自然と人は集まってきます。





部門賞 パートナーシップ部門

選考委員からのコメント



楠本 浩史 氏

単なるリサイクルではなく、こども園等の多様なプレイヤーも巻き込んだ取組である点を高く評価しました。今後廃プラスチックをリサイクルしていくことが求められる中で、地域貢献、保護者への波及も含めた環境教育効果が認められる点も特徴的です。



山本 由加 氏

静岡の誇る地域産業であるプラモデルを通じて、モノを廃棄するのではなく新しい価値を付加して循環させる、これからの創造のあり方を子ども達に具体的に伝えています。このような取組の積み重ねが再生プラスチックの本格的な社会実装に繋がることを期待します。

SDGsインパクト



【ターゲット 4.7】

すべての学習者が持続可能なライフスタイル等の教育を通して知識とスキルを確実に習得できる

再生プラスチックから制作された教育支援プラモデルを用いて、幼児と保護者が静岡市の文化に触れ、遊びながら環境についても学ぶことができる。



【ターゲット 12.5】

廃棄物の発生を再生利用等により大幅に減らす

再生プラスチックの利用を通じ、廃棄物の抑制と「再利用」の意識づけを普及啓発する取組となっている。



【ターゲット 17.17】

効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

地域の企業・団体が連携して生まれた環境教育プラモデルに幼少期から触れることで、環境への配慮やサステナブルな取組への思考を深め、長期的に人材を育成する取組としても評価できる。

環境配慮型教育支援プラモデルによるマテリアルリサイクル促進プロジェクト

一般社団法人しずおかビジョン研究所 × 株式会社西商店 × 株式会社青島文化教材社
× 学校法人鷺巣学園（幼保連携型認定こども園 梨花幼稚園）

1.取組概要

国をあげて取り組んでいるプラスチックの資源循環促進に貢献と、「ホビーのまち静岡」が誇る工芸文化に幼児期から慣れ親しみ郷土愛を育むことを目的としています。廃家電による再生プラスチックで制作した環境配慮型の教育支援プラモデルを使用し、就学前の幼児と保護者が共同で環境について学び、静岡市の文化を体験することで、人材育成と持続可能な社会の構築、地域活性化を目指します。

2.該当するSDGs目標

4 質の高い教育をみんなに
静岡市が世界に誇るプラモデルを活用し環境教育を実施することで、家庭等で環境問題やSDGsについて考える機会を提供し、循環型社会実現に貢献します。

その他関連するSDGs目標



3.目標に対する達成状況、実績

これまで、累計約100kgの再生プラスチックを有効活用してきました。この結果、本来廃棄物として処理されるプラスチックの削減に加え、一般のプラスチック製造に発生する石油などの化石燃料、原料調達コスト、二酸化炭素排出量などを削減できたこととなります。今後もSDGs目標12（12-5）である廃棄物の発生防止に資する取組として継続していきます。

5.取組が開始されたきっかけと展開

世界的にプラスチックの資源循環を促進する重要性が高まり、日本でも「プラスチック資源循環戦略」を策定以降、2022年4月1日から通称「プラ新法」（プラスチック資源循環促進法）が施行され、各企業・自治体において新たな取り組みがスタートしてきました。今後は各家庭においてもより一層に環境問題への意識を高めていくことが必要で、その普及啓発に取り組もうと思ったのがきっかけです。「プラモデル」（「プラスチックモデル」）はその名の通り、主にプラスチックで構成されており、各社でも創意工夫がされています。幅広い世代に親しまれている「プラモデル」を活用して、幼児と保護者に環境教育を実施することで、一時的でなく長期的な効果を期待するとともに、日本が世界に誇る文化を持続可能にしていけることを目指しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後は静岡市の出前講座も活用しながら継続的に学校法人鷺巣学園と協働で環境教育への取り組みを進めていくとともに、この取り組みの輪が広がっていくよう情報発信に取り組んでいく予定です。



4.取組イメージ



7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

再生プラスチックは通常のプラスチックより費用や強度面等で課題があるため、まだ導入に踏み切れていない企業も多くあります。今回の取り組みは、技術的なハードルは高くないため、他の企業・団体も導入しやすい汎用性は高いと考えます。SDGs達成に向けて一人一人が意識して行動していくことが定着されつつあることから、売り手・買い手で環境に配慮した製品に理解されることで、各課題も次第に解消されていくものと思います。今後は、各家庭で環境教育を学べるプラモデルキットの販売も検討し継続的に機運を醸成していくことで、環境問題への輪が広がっていくことを目指していきます。





部門賞 ユースアクション部門

選考委員からのコメント



小林 祐介氏

探求活動でSDGsをテーマに取り組む例は多いですが、聞いて学ぶだけでなく、実践し、商品化にまでつなげている過程が素晴らしいです。高校生にとって課題解決を通じた学びや多様な出会いが得られるプログラムとして、非常に意義のある取組です。



楠本 浩史氏

本取組は単発のものではなく、令和5年度に学校として取り組み始めたプロジェクトを後輩が引き継ぎ商品開発に至ったストーリー等が評価されました。今回の取組を契機に次年度以降は商品の展開や更なる事業者等の巻き込みを期待しています。

SDGsインパクト



【ターゲット 4.7】

すべての学習者が持続可能なライフスタイル等の教育を通して知識とスキルを確実に習得できる

授業の中で高校生たちが地域特産品の規格外野菜とその課題を学び、企業とともにそれを解決するための商品案を考え、行動しており、持続可能な社会を意識づける教育につながっている。



【ターゲット 12.3】

小売・消費者レベルにおける世界全体の1人あたりの食品廃棄を半分にする

廃棄されるはずの規格外野菜を新たな商品につくり変え、消費されるものとなったことで、食品廃棄の削減に貢献している。今後は一般販売も予定されているため、経済面での成長も期待できる。



【ターゲット 17.17】

効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

地元企業や団体との連携により、高校生が地域で活躍する大人と関わりながら活動することができ、静岡市で生活するモチベーションの向上や、地域人材育成への寄与が期待できる。

「私たちの学びを届けて未来へ繋げる」～静岡市の特産品を活用して～

静岡市立清水桜が丘高等学校 × 有限会社秋月堂 × しずおかもったいないプロジェクト

1.取組概要	静岡市立清水桜が丘高等学校商業科の3年生「課題研究（地域連携クラス）」では、地域の方々のご協力により様々な角度から多くの実践的な学びを進めています。今回、学びのスタートとして社会課題を見つめ直し、静岡市の課題に焦点をあてた時に、静岡市の特産品である葉ネギが農場で廃棄される規格外野菜の存在を学びました。そこで食品ロス削減に繋げ、この課題を広めていくためにも、地元の老舗お菓子処である秋月堂本店様のご協力のもと葉ネギを活用した商品開発に取り組みました。
2.該当するSDGs目標	4.取組イメージ
  これまで廃棄されていた規格外野菜を活用し、高校生が授業で学んできたことをその商品に意味付けし販売していくことで、食品ロスに繋げると共に、地域の方に地元の課題を知ってもらうきっかけとします。	 
その他関連するSDGs目標	
3.目標に対する達成状況、実績 本活動により完成した商品は、「サクチャーネ」という商品名で一袋7本入り、静岡市の特産品である葉ネギとチーズを掛け合わせた一品です。この商品に対して、全体量の11%に規格外野菜である葉ネギを活用しています。これはSDG s 目標12に設定されている廃棄物の発生防止に資する取組となります。今後は商品の販促活動に力を入れ、静岡市の特産品のPRと共に、SDG s 推進活動を実践していきます。	 
5.取組が開始されたきっかけと展開 ①令和5年度、商業科2年生「商品開発と流通」の授業の中でコラボ企画が始まりました。本校卒業生で長年地元で愛されてきた秋月堂本店様と取り組み、企業理念やその取り組みを知り、商品を開発するための必要な知識を実践的に学びながら新たな商品を開発する意味や大変さを学び、令和5年度は簡単な商品案を考へるところで終了しました。 ②①の授業を選択した一部の生徒が令和6年度の「課題研究（地域連携クラス）」を選択し、昨年度の学びを引き継ぎ、継続して商品開発を実施することとなりました。 ③令和6年度からは商品開発と共に、世の中に流通する商品を改めて見直し、様々な意味や目的を持つ商品が流通されていることを学習していききました。 ④新たな商品にも自分たちができる意味づけをしていきたいと生徒たち自身が考え、社会課題である「食品ロス」の現状と課題について様々な角度から学び始めていきました。その際、静岡市のごみ減量課の皆様をはじめ、多くの地元企業の取り組みを学び、改めて社会課題と共に地元の課題を知ることとなります。 ⑤もったいないプロジェクトの方からの講話で静岡市の特産品である葉ネギが規格外野菜として農場で捨てられている現状を知り、その葉ネギを活用できないかと考え、令和5年度から連携をはじめた秋月堂様と連携し改めて社会課題解決に向けた新たな商品開発に取り組みこととなり、試作を重ね完成致しました。	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント 本活動では、高校生の学びに協力して下さる皆様のおかげで取り組むことができました。規格外や過剰供給等で困っている農家さんはたくさんいらっしゃると思います。企業や自治体の皆様だけではなく、若い世代である高校生に現状を伝えていただくことで、その課題が彼らの学びとなり、SDG s を意識して考えるきっかけに繋がります。そして新たな出会いから連携、協力体制が構築され、新しい取り組みに挑戦することができ、地域一体となりSDG s 活動に貢献することができると思います。  
6.応募した取組の今後の計画・展開 ・完成した商品の一般販売を計画しています。秋月堂様での販売計画以外にも、商品の意味を広く地域の皆様へ届けるため、イベントや店舗での販売計画を考え活動していきます。 ・この取り組みをきっかけに、高校生がさらに社会課題に目を向け関心を抱くような授業を展開していきたいと思っています。そして、自ら考え、感じ、新たな課題を発見しながら、さらに学びを探究できる活動を取り入れていきたいです。 ・この取り組みから、SDGsを軸に改めて学校生活を見直し、SDG s の目標を校内、校外に向け実施される様々な取り組みの企画の糸口としていきます。 ・高校生が地元地域で活躍する多くの大人と関わることで、静岡で働くことの楽しさや魅力を知り、将来地元地域で活躍できる「未来の静岡の創り手」を育成していきます。	



SDGsローカルハブ都市 特別賞

選考委員からのコメント



楠本 浩史氏

スポーツイベントなどでは食も大きな楽しみになっていますが、容器は衛生面も考慮し使い捨てのものが用いられることが多いことを踏まえ、さとうきびの廃棄物由来のバガスを原料として、またバガスは土壌へ帰るという一石三鳥の取組としている点を評価しました。今後は県内の他のチームとも連携し、静岡県内のスポーツイベントでの利用がより促進されることを期待します。



山本 由加氏

プラスチック代替としてのバガス容器利用、容器の土壌分解実験、その土壌を活用した子ども達への環境教育。一連の取組をエスパルスの高い知名度で押し上げ、地元企業が専門性で支える事業設計力の高さは、今後、SDGsが社会に実装されていく可能性を感じさせます。

SDGsインパクト



【ターゲット 12.5】
廃棄物の発生を再生利用等により大幅に減らす

バガスを飲食販売等で使用する容器に再利用することで、廃棄物を抑制し、エシカル消費を促す取組。プラスチック容器と対比して販売し、消費者は購入することで SDGs を学び、行動につなげることができる。



【ターゲット 14.1】
陸上活動からの汚染による、あらゆる海洋汚染を大幅に減らす

植物由来のバガス容器は使用後、土壌分解により土に還る。また、海にも優しい素材のため、生態系への悪影響を避けられる。イベント等での活用は、バガス利用の普及に効果的である。



【ターゲット 15.2】
あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進する

バガスは木材パルプに代用することができ、森林伐採量の削減にも効果的である。計画的な森林保護により、地球温暖化の抑制や、生物多様性の保全など、海にも陸にも優しい社会への寄与が期待できる。

SDGsローカルハブ都市特別賞のポイント

世界中で大量に生産されているサトウキビの副産物である「バガス」は、国内での利用にとどめるのではなく、海外都市においても取り入れやすい取組といえる。世界に向けて発信し、環境にやさしい社会の実現に向け、一丸となって取り組む必要がある。

SDGs環境教育プログラム「バガス容器が見出す無限の可能性」

(株) エスパルス × (株) 折兼 × 伊豆川飼料 (株) × (株) nanairo

1. 取組概要

エスパルスは2007年より行政・企業・教育機関及び市民の皆様と「エスパルスエコチャレンジ」を継続的に実施しています。本取組みでは、世界70か国で年間12億トン栽培されるサトウキビの搾りかす「バガス(従来廃棄物として処理される)」を原料とした環境にやさしいバガス容器を利用し、飲食販売、販売を通じた小学生への環境教育、エシカル消費実証実験、実験による収益の一部を子ども食堂へ寄付、使用済みバガス容器を回収し土壌分解、分解した土を使用した野菜の栽培といった多様なプログラムを通じて幅広いフィールドでの環境教育活動を促進するとともに、バガス容器の無限の可能性を見出す唯一無二の企画です。

2. 該当するSDGs目標



サトウキビの搾りかすとして輩出されるバガスは1年間に世界で約1億トン。廃棄物として処理されるバガスを容器の原料として再利用。また容器の原料となっている森林伐採量を減らすことに貢献、森林保護やCO₂削減にも寄与。また生分解性される素材で使用後にもメリット多数。

その他関連するSDGs目標



3. 目標に対する達成状況、実績

- ・幅広い世代が来場する清水港フラワーフェスタにてバガス容器を用いた飲食の販売。
- ・エスパルスサッカースクール及びダンススクールに所属する小学生約40人が飲食販売と製造及びエシカル消費実証実験に携わる
- ・同じ商品(破壊されるマグロのネグトロ端材を用いたマグロメンチカツバーガー)をバガス容器600円、プラスチック容器500円で販売。かき氷含め結果バガス容器85食、プラスチック容器29食販売し差額の6,350円を市内の子ども食堂に寄付。市場動向の傾向も把握。
- ・販売したバガス容器の中で当日回収した容器は土壌分解を実施し、バクテリアによって分解され土に還る。
- ・上記子どもたちにレクチャーしながらバガス容器が分解された土を用いて野菜を育て収穫予定。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

- ・2023年は三保の海岸で親子でビーチコーミングを実施。ビーチには陸から流れてきたゴミ、プラスチック由来のゴミが大半であることを参加者に実体験いただいた。その後バガス容器を用いてカレーを食べた後に、容器をコンポストに入れ土壌に自然分解される環境に優しいバガス容器の魅力をプラスチック容器と対比。
- ・2024年は市場でバガス容器を用いたエシカル消費実証実験を実施し一般消費者の動向を調査するとともに、当企画に小学生約40名が参加することでバガス容器の魅力を理解するとともに商品の販売やバガス容器の回収を実体験する幅広い環境教育活動に発展。
- ・エシカル消費実証実験で得た収益の一部を子ども食堂に寄付することで新たなフィールドにおいても環境に配慮した商品の活用をPRすることが可能となり、子ども食堂への寄付という地域貢献活動にも寄与することができた。
- ・一連の流れを地元の新聞に掲載いただき直接企画に携わっていない皆様へも広く周知することに発展。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

- ・6月に回収したバガス容器は8月～9月には土壌分解される予定。伊豆川飼料で使用しているツナ加工時に排出される非可食部分により製造されたマグロ由来の有機肥料をバガス容器が分解された土に混ぜ、その土を用いて野菜の栽培を試みて資源が循環される流れを子どもたちが体験できる企画を計画。
- ・収穫した野菜はエスパルス関連施設等で企画の趣旨を提示しながら地域に配付、食材として子ども食堂に寄付、調理・加工して各種イベントにて販売するなど資源循環のサイクルを一巡させる。
- ・環境に優しいバガス容器の選択をきっかけに、各自が世の中に存在する様々な商品や選択の中からSDGsに寄与する行動を率先して選択するきっかけとなることを幅広い分野で啓蒙推進。

4. 取組イメージ



7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

1. サトウキビの生産国は世界70か国以上、年間約12億トン生産される世界第7位の農作物です。そのうち1年間に排出されるバガスの量は、世界中で約1億トンにのぼります。廃棄されているバガスを容器の原料として使用するバガス容器の普及は世界規模で大きなインパクトを出すことができる可能性があります。
2. 人間の生活圏で排出されたゴミが海に流れる可能性は高くその7割はプラスチック由来です。自然分解には400年以上の時間を要するとされていますが、バガス容器は生分解性される素材であり海洋プラスチック問題にも大きく貢献できる可能性があります。
3. プロスポーツクラブの告知力、バガス容器を取り扱う折兼、土壌分解等について専門的知見のある伊豆川飼料、破壊されるマグロのネグトロ端材を用いたマグロメンチカツバーガーを販売する就労継続支援B型事業所nanairoがそれぞれの強みを生かしパートナーシップにより新たな価値を創出。他の分野・テーマにおいてもSDGs目標達成を目指すためには、こういったパートナーシップの拡大は不可欠と思慮します。

